

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マーケティング論Ⅰ（Marketing ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	夏 目 千 恵 子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 企業の活動のうち、マーケティングは最も重要な活動の一つです。本科目では「マーケティング」とは何かを学んだ後に、マーケティングを構成する基本用語、理論と事例など、マーケティングの全体像を学んでいきます。									
授業目標： (1) マーケティング理論の基本的な考え方や発想方法について理解を深めること (2) 身の回りの製品やサービス、興味関心を持った企業の活動などについて分析・考察ができるようになること。 以上2点を本科目の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	マーケティング発想の経営					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
2	マーケティング論の成り立ち					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
3	マーケティングの基本概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
4	製品のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
5	価格のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
6	広告のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
7	チャネルのマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
8	サプライチェーンのマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
9	営業のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
10	顧客関係のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
11	ビジネスモデルのマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
12	顧客理解のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
13	ブランド構築のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
14	ブランド組織のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
15	社会責任のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
教本：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング』中央経済所 参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（60％）、レポートなど（20％）、平常点（20％）。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： マーケティングとは、企業活動における「売れる仕組みの構築」に関する活動の総称です。興味を持って学んでいきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日にお伝えします。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	マーケティング論Ⅰ（MarketingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 伝統的なマーケティング理論は、消費者行動論や広告に代表されるコミュニケーション戦略でしたが、近年はEC（エレクトリック・コマース）市場の発展が著しく、消費・流通市場は大きく変わりました。この点にも留意して、マーケティングの基本概念とツールを講義します。事例研究も含みます。									
授業目標： (1) マーケティングの視座で経済をみる。 (2) 事例研究できること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：講義の進め方と範囲の説明。評価の方法。					事前：用語表の作成 事後：講義の要約		講義と発表	
2	消費市場：(1) 消費者統計 (2) わが国の消費の特徴 (3) 消費市場の歴史					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
3	市場調査：(1) 市場調査の必要性 (2) 市場調査の概要 (3) 市場調査の手順					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
4	消費者行動：(1) 購買の意思決定の要因 (2) 購買とマーケティング (3) 情報収集					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
5	製品のライフサイクル：(1) ライフサイクルとは (2) 製品の普及と顧客					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
6	製品戦略：(1) 流通業者による商品開発 (2) 製品ミックスと製品政策 (3) 製品政策					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
7	価格戦略(1)価格戦略の意味(2)価格競争(3)新製品と価格(4)プライシングの重要性					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
8	チャネル戦略：(1) 販売経路の意味 (2) 販売経路の形態 (3) 販売経路戦略の実践					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
9	マーケティング・コミュニケーション1： (1) 広告の意義 (2) 広告計画 (3) 広告の種類 (4) PR活動とパブリシティ戦略					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
10	マーケティング・コミュニケーション2： (1) 販売促進活動 (2) 販売員活動 (3) DM、イベント他					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
11	サービス・マーケティング： (1) モノとの違い (2) サービスの評価と価値 (3) 事例研究					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
12	ブランド：(1) ブランドの意味 (2) 歴史とランキング (3) ブランド価値と機能					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
13	eマーケティング：(1) 電子商取引の実践 (2) 市場の動向 (3) SNSの影響 (4) 統計					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
14	SDGsマーケティング： (1) 新時代のマーケティング (2) 企業活動とSDGs (3) 今後の方向性					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
15	本講座のまとめ：新しいマーケティング					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表	
教本： 恩蔵直人『マーケティング』第2版 日経文庫 2019.					参考文献： 岸 志津江、田中 洋、嶋村和恵 著『現代広告論』第3版 有斐閣アルマ 2017.				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： マーケティングは最も身近に接することができる商業活動です。マーケティングの基本概念・理論を身につけて下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	マーケティング論Ⅱ（Marketing management Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「マーケティングⅠ」ではマーケティングの基礎を学びました。「マーケティングⅡ」においては、観光業界のマーケティングについて学びます。									
授業目標： (1) マーケティング理論の基礎知識を習得する。 (2) マーケティング理論が観光ビジネスでどう実践されているのか理解し、把握する。 以上2点を本科目の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
2	マーケティングとは					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
3	どうして商品を購入するのか					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
4	お客様を理解する					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
5	商品購入のプロセス					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
6	旅行商品がお客様に届くまで					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
7	価格戦略の策定					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
8	敵を知り、己を知れば、百戦危うからず					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
9	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
10	マーケティング的発想とは					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
11	ブランドと理念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
12	お客様との長い関係					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
13	マーケティングリサーチ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
14	マーケティングのあり方とは					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
教本： 森下晶美編著『新版 観光マーケティング入門』同友館					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（60％）、レポート等（20％）、平常点（20％）。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： マーケティングとは、企業活動における「売れる仕組みの構築」に関する活動の総称です。興味を持って学んでいきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日にお伝えします。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 Ⅱ (Marketing Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 Ⅰ を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： マ ー ケ テ ィ ン グ 論 Ⅰ で は 基 本 的 な マ ー ケ テ ィ ン グ 理 論 を 講 義 し ま し た。本 講 座 は マ ー ケ テ ィ ン グ の 応 用 編 と し て ケ ー ス ス タ デ ィ を 中 心 に 論 じ ま す。実 際 の 成 功 例 と 失 敗 例 を あ げ ま す が、通 常 取 り 上 げ ら れ な い 分 野 も ビ ッ ク ア ッ プ し ま す。ま た、近 年 急 拡 大 し て い る e コ マ ー ス も 取 り 上 げ ま す。									
授 業 目 標： (1) マ ー ケ テ ィ ン グ の 実 際 を 知 る。 (2) 情 報 入 手 の 方 法 を 知 る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標（最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳 細 に 記 入）						事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態
1	ガイダンス：講義の進め方と範囲の説明。評価の方法。						事前：用語表の作成 事後：講義の要約		講義と発表
2	音楽マーケティング1 J.Pops： (1) ジャンル (2) わが国の音楽市場の変遷と展開 (3) J. ポップスの成長と衰退						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
3	音楽マーケティング2 Pops： (1) ジャンル (2) 世界の音楽 (3) どのようにしてヒットしたか (4) Pops と J. Pops						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
4	クルマのマーケティング1： (1) 耐久消費財のマーケティングとは (2) 製品開発としてのクルマ・マーケティング						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
5	クルマのマーケティング2： (1) 100年に1度のマーケティング(EV) (2) 巨額投資製品のマーケティング						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
6	メディアとマーケティング1：(1) 活字媒体の変遷 (2) 各種メディアの動向						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
7	メディアとマーケティング2：(1) ラジオ (2) テレビ (3) インターネット						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
8	健康マーケティング：現代人は健康と安全にコストをかけるといわれているが。						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
9	E-コマース1：(1) アマゾンと楽天 (2) IoT とは何か (3) 市場の動向と今後						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
10	E-コマース1：(1) e-コマースにおけるSNS活用 (2) SNSの実態と広告						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
11	環境マーケティングとSDGs：(1) 地球規模のマーケティング (2) エコマーケティング						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
12	行政とマーケティング： (1) 私たちの税金は有効に使われているのか (2) 行政は公共マーケティングを活用しているか						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
13	政治とマーケティング： マーケティングのツールで政治(家)をとらえてみる。彼らは何を重要視しているのか？						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
14	ヒット商品列伝： ヒット商品はマーケティングの成功なのか、それとも製品・サービスの成功なのか？						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
15	衰退した商品例ーオーディオ：3大趣味といわれたオーディオはなぜ衰退したか。						事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義と発表
教 本： 恩蔵直人『マーケティング』第2版 日経文庫 2019. 参 考 文 献： 岸 志津江、田中 洋、嶋村和恵 著『現代広告論』第3版 有斐閣アルマ 2017.									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 実 際 の 商 品 ・ サ ー ビ ス が ど の よ う な マ ー ケ テ ィ ン グ 手 法 で 市 場 に 出 た か を 知 る こ と が で き ま す。									
オ フ ィ ス ア ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	マクロ経済学（Macroeconomics）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他	特になし							
授業概要： 新型コロナの感染拡大は、我々の生活に大きな影響を及ぼしています。感染拡大によって傷ついた我が国の経済を支えるために、政府は様々な政策を実施しました。このような一国の経済全体の動きや、経済に影響を与える政府の活動を理解する際に、マクロ経済学の視点は役に立ちます。この授業では、マクロ経済学の考え方の基礎を学びます。									
授業目標： 日常の「経済」に関わる物事に対して、マクロ経済学の視点から見るための基礎的知識・モデル・枠組みを習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：マクロ経済学とは何か、マクロ経済学のものの見方などをお話します。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義・対話	
2	国内総生産（GDP）：国内総生産について、GDP と GNP、その算出方法、三面等価の原則、経済成長率を学びます。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
3	消費：マクロ経済の総需要の一つである消費について、消費と所得、消費関数、貯蓄を説明します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
4	投資：景気の動向に大きな影響を与える投資について、投資とは何か、資本の限界効率、投資の乗数効果を理解します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
5	政府支出：政府支出の役割、景気のコントロール、政府の財政政策についてお話します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
6	海外部門：輸入と輸出、国際収支統計、為替レートと経済への影響などを理解します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
7	貨幣市場と金融政策：貨幣市場について、資金の余剰主体と不足主体、貨幣の需要と供給、中央銀行の金融政策を学びます。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
8	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：なし		中間テスト	
9	景気循環と経済成長：戦後日本の高度経済成長期、景気循環の理論と現実、景気動向指数について説明します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
10	物価：物価変動の仕組みと失業率について、物価指数、インフレーション、スタグフレーションなどを学びます。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
11	為替レートと貿易：固定為替相場制と変動為替相場制、為替レートの決定理論、変動の影響についてお話します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
12	日本銀行の金融政策：戦後日本のバブル景気、貨幣供給の仕組み、日本銀行の金融政策とその影響を説明します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
13	失業：バブル崩壊後の日本経済、失業の種類、非自発的失業などについてお話します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
14	バブル崩壊後の日本の財政政策：財政の役割と方法、財政政策の効果、財政赤字の拡大について学びます。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
15	総括					事前：後半の復習 事後：配布物復習		講義・対話	
教本：石橋春男、橋口宏行、河口雄司著『よくわかるマクロ経済学入門』（慶應義塾大学出版会、2015 年）、¥1,800。参考文献：三上真寛『マクロ経済学：基礎へのアプローチ』（学文社、2020 年）、¥2,000。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 新型コロナの拡大は、経済にも大きな影響を及ぼしています。企業活動の縮小、成長率の低減、失業率の上昇、円安、物価高など、ニュースの中で報道される経済現象を理解する上で、マクロ経済学の考え方は役に立ちます。興味があれば是非受講してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マルチメディア A（画像）（Multimedia A）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	そ の 他	PCの操作スキルを習得していない場合、必ず上記科目から履修すること							
授業概要： デジタル画像は、現代のデジタルコンテンツの重要な基本要素である。デジタル画像に関する知識と編集技術について、PC／スマートフォンを利用した作品制作を通して学修する。									
授業目標： 1．デジタル画像に関する用語を理解し、説明ができる。 2．視覚表現の意図に沿って、計画的にデジタル画像を編集することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明／デジタル画像の分類を理解する					事前：シラバスを読む 事後：デジタル画像の分類を調べる		講義	
2	カメラの仕組みと撮影環境を理解する デジタル画像の仕組みの概要を理解する					事前：撮影機材の準備 事後：授業内で指示する		講義 60分 演習 30分	
3	講義内容を踏まえ撮影を実践する					事前：撮影の計画を練る 事後：画像データを整理する		講義 60分 演習 30分	
4	画像編集ソフトの基本操作について理解する					事前：画像編集ソフトを準備する 事後：画像編集ソフトについて復習する		講義 60分 演習 30分	
5	画像にレタッチを施す／画像ファイルの管理方法を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：レタッチについて復習する		講義 60分 演習 30分	
6	画像編集におけるレイヤーの概念、使用方法とその応用を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：レイヤーについて復習する		講義 60分 演習 30分	
7	画像編集におけるフィルターの使用方法とその応用を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：フィルターについて復習する		講義 60分 演習 30分	
8	これまでの演習を踏まえコラージュを作成する／作例を鑑賞する					事前：コラージュについて調べる 事後：コラージュを作成する		講義 60分 演習 30分	
9	デジタル画像の諧調と色彩が、どのように保存されるかを理解する／色空間の概念を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：諧調と色彩の表現について復習する		講義 60分 演習 30分	
10	文字の要素による視覚効果を理解する／事例をもとに誘目性について検討する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：文字要素と誘目性について復習する		講義 60分 演習 30分	
11	画像編集ソフトによる描画方法を理解する／多様な 2 次元グラフィックツールについて説明する					事前：グラフィックツールについて調べる 事後：ポスターの構成要素について調べる		講義 60分 演習 30分	
12	表現の意図に沿ってポスターを作成する（企画／計画）					事前：課題制作の準備をする 事後：作品を企画する		講義 30分 演習 60分	
13	表現の意図に沿ってポスターを作成する（素材準備）					事前：課題制作の準備をする 事後：課題制作の素材を準備する		講義 30分 演習 60分	
14	表現の意図に沿ってポスターを作成する（制作）					事前：課題制作の準備をする 事後：作品を完成させる		講義 30分 演習 60分	
15	作品相互レビュー／総括					事前：作品を提出する 事後：ポスターについて理解を深める		講義	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業での演習（30%）、小テスト等（30%）、作品制作（40%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 3304、2207 以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。履修希望者が定員を超えた場合、初回授業にて抽選を行う。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	マルチメディア B（映像）（Multimedia B）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	マルチメディア A（画像）							
	そ の 他	この授業では、マルチメディア A から、さらに発展した広範囲にわたる知識が必要となる。そのため、原則としてマルチメディア A の単位を修得した学生を対象とし、また、マルチメディア A の授業目標に達していることが望ましい。							
授業概要： マルチメディア対応の映像を作成するのに必要な、知識や手順を理解する。動画撮影の基本から、動画処理に必要な知識や技能を身に付ける。ストーリーを効果的に伝える動画の視覚要素を学修する。									
授業目標： 動画データの作成に必要な構成要素、技術、手順を説明できる。 表現の意図に基づき、撮影から編集まで、計画的に遂行することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス／マルチメディアについて理解する					事前：シラバスを読む 事後：配布資料を確認する		講義	
2	動画撮影の方法、必要な機材と操作方法を学習する					事前：ノート PC の準備をする 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60分 演習 30分	
3	動画編集に関する技術を概観する／動画編集ソフトを準備する／タイムラインを理解する					事前：ソフトウェアをインストールする 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60分 演習 30分	
4	動画編集ソフトを利用して編集技術を学習する ＜編集技法＞カッティングオンアクションを理解する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：講義内容を復習する		講義 60分 演習 30分	
5	動画編集ソフトを利用して編集技術を学習する ＜編集技法＞カットアウェイ／クロスカットを理解する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：講義内容を復習する		講義 60分 演習 30分	
6	これまでの講義を踏まえ、小作品を制作する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：小作品を完成させる		講義 60分 演習 30分	
7	さまざまな編集技法の事例に触れる					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：各自で編集技法について調べる		講義 60分 演習 30分	
8	動画編集ソフトを利用して編集技術を学習する ＜編集技法＞L カット／J カットを理解する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60分 演習 30分	
9	講義を踏まえ、小作品を制作する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：小作品を完成させる		講義 60分 演習 30分	
10	ストップモーションを学習する ピクシレーションを学習する					事前：動画素材を準備する 事後：作品を完成させる		講義 60分 演習 30分	
11	プロジェクションマッピングを学ぶ					事前：動画素材を準備する 事後：リアクションペーパーを提出する		講義 60分 演習 30分	
12	グループワークにて動画作品を制作する（準備）					事前：グループの企画を共有しておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60分 演習 30分	
13	グループワークにて動画作品を制作する（撮影）					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60分 演習 30分	
14	グループワークにて動画作品を制作する（編集）					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60分 演習 30分	
15	課題発表を行う					事前：なし 事後：なし		講義 60分 演習 30分	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業での演習（30％）、小テスト等（30％）、作品制作（40％）で評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ミクロ経済学（Microeconomics）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他	特になし							
授業概要： 新型コロナの感染拡大は、我々の生活に大きな影響を及ぼしています。日々のニュースの中で、コロナによって経済が大きく傷つき、収入の減少や失業、物価の高騰などが報道されています。我々が経済について考えるとき、市場、需要と供給、希少な資源をいかに効率的に配分するかなど、ミクロ経済学の視点は役に立ちます。この授業では、ミクロ経済学の考え方の基礎を学びます。									
授業目標： 日常の「経済」に関わる物事に対して、ミクロ経済学の視点から見るための基礎的知識・モデル・枠組みを習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：ミクロ経済学とは何か、ミクロ経済学のものの見方などをお話します。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義・対話	
2	市場： 市場での主役たち、価格、便益と費用、分業について学びます。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
3	商品：商品が持つ効用、効用と希少性、財の価値について説明します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
4	消費者：消費者の選択、効用の特徴と価格との関係を理解します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
5	生産者：企業の利潤追求、収入と費用の限界値、収穫逦減の法則、最適生産量についてお話します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
6	需要と需要量：需要の法則、需要曲線、無差別曲線と予算線、代替効果と所得効果を理解します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
7	供給と供給量：供給を決める要因、価格と供給量の関係、供給曲線について学びます。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
8	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：なし		中間テスト	
9	弾力性：供給の価格弾力性、需要の価格弾力性、所得弾力性などを説明します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
10	市場均衡：価格の決定プロセス、市場均衡、価格調整、数量調整について理解します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
11	最適資源配分：需要と供給の均衡、生産物市場での余剰、政府の介入と自由貿易についてお話します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
12	独占：市場の失敗としての独占、不完全競争市場、競争と淘汰、余剰分析を説明します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
13	情報：情報の非対称性、モラルハザード、外部効果などについてお話します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
14	公共財：公共財の特徴と種類、公共財の非競合性、フリーライダー問題をお話します。					事前：テキストの該当箇所 事後：配布物復習		講義・対話	
15	総括					事前：後半の復習 事後：配布物復習		講義・対話	
教本： 石橋春男、橋口宏行、中藤和重著『よくわかるミクロ経済学入門』（慶應義塾大学出版会、2014年）、¥1,800。									
参考文献： 三上真寛『ミクロ経済学：基礎へのアプローチ』（学文社、2020年）、¥2,000。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ミクロ経済学では数式やグラフを使いますが、数式については可能な限りわかりやすくお話します。グラフは数と数の関係（関数）を図に示したものです。新しいこと（学問）を学ぶ際には、頭の中の「もののつながり」ができてしまえば理解が進みます。興味があれば受講して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	民俗学 (Folklore)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： はじめに民俗学者の生涯と研究を軸に、民俗学の学史と理論、民俗学とはどのような学問かを学ぶ。身近な事例から初め、民俗学の多彩な概念を理解し、具体的調査・研究事例について理解する。日常生活上の民俗についてアンケートや発表を行い、その結果について議論や解説を行う。									
授業目標： 日本民俗学の概要を理解する。 年中行事や人生の様々な儀礼、そして日常生活上の色々な事象について、民俗学的視点から見つめなおせるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。日本民俗学とはどのような学問なのか					事前：自分の食べた正月料理について確認 事後：シラバスの内容確認		講義(60分)、 発表(30分)	
2	日本民俗学の歩み① 柳田国男の生涯と学問。柳田の研究概要を示す。1回のアンケートを発表し、議論					事前：アンケートのまとめと確認 事後：配布資料の内容確認		講義(60分)、 発表・演習(30分)	
3	日本民俗学の歩み② 江戸時代・明治期の調査・研究と南方熊楠、今和次郎。ヨーロッパ民俗学の影響					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	日本民俗学の歩み③ 様々な民俗学研究。折口信夫、宮本常一の研究。渋沢敬三と民具研究の実践					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	民俗学の調査・研究法① 重出立証法、比較研究法、民俗地図、民具地図等について					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	身近な民俗学① 兆し、占い、禁忌(きんき)、呪い(まじない)、時刻、干支など					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 演習(20分)	
7	身近な民俗学② 年中行事。大晦日、正月、節分、七夕、盆等					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 演習(20分)	
8	民俗学の調査・研究法② 民俗学の主要概念である、ハレ、ケ、ケガレ。常民とサンカ					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
9	民俗学の調査・研究法③ 神とアニミズム、祖先崇拜など					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
10	身近な民俗学③。人生儀礼 出産、成育、結婚、葬送など					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 演習(20分)	
11	民俗学の調査・研究法④ 関連諸学との関係。歴史学、考古学、人類学、絵画史、建築史等々					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
12	伊豆諸島の生活文化。実際の調査・研究事例から、具体的に伊豆諸島の生活文化の歴史と実態					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
13	民具研究の方法と実践、成果 発火具、照明具等の民具研究の成果について。レポート課題提示					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(60分)、 レポート作成(30分)	
14	学生の発表 学生が質問や意見を述べる					事前：発表の準備とそのレポート作成 事後：レポートの完成		演習(90分)	
15	まとめ 授業全体の振り返りと、質問受け付け、議論					事前：全ての配布資料確認 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、 デスカッション(45分)	
教本： 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。					参考文献： その都度提示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	メディア情報論 (Media and Social Informatics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論							
	そ の 他								
授業概要： あらゆるものがメディアを通して得られる情報によってつながるソーシャルメディア社会が到来している。そのソーシャルメディア社会では、今までとは異なった知見や考え方、対応の仕方が必要になっていく。本講義では、メディア社会における知見を知り、ディスカッションを行うことにより理解を深める。									
授業目標： 本講義では、ソーシャルメディア社会におけるメディアリテラシーを身につけることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ソーシャルメディア社会の誕生					事前：精読（11-29） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
2	技術的に可能なオープンプライバシー社会とその功罪					事前：精読（33-45） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
3	ソーシャルメディア時代の制度はどうあるべきか					事前：精読（48-62） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
4	ソーシャル時代で改めて問われるニュースの質					事前：精読（66-78） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
5	ルール間の摩擦が生む問題					事前：精読（81-94） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
6	すれ違う政治と有権者、理想なきインターネットの解禁					事前：精読（97-110） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
7	ソーシャルメディア社会の透明な動員					事前：精読（113-124） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
8	都市の自由を私たちが維持するために					事前：精読（127-138） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
9	コンテンツの拡張と対抗					事前：精読（141-152） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
10	あらゆるモノがつながる社会のメリットとデメリット					事前：精読（156-168） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
11	都市と地域をつなぎ直す					事前：精読（172-184） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
12	ルールは誰が作るのか					事前：精読（187-197） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
13	システムで新たなつながりを作る					事前：精読（199-212） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
14	発信者としての大学生はどうあるべきか					事前：精読（215-228） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
15	別の顔を制度化する					事前：精読（231-243） 事後：議論レポートの作成		講義 45分、 ディスカッション 45分	
教本： 『ソーシャルメディア論』（青弓社）					参考文献： 『メディア文化論』（有斐閣）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各回のディカッションはテキスト内の考えてみようをテーマに行います。必ず事前にテキストを精読の上、各自考えた上で参加するようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	幼児・児童期の心理 (Psychology of Early Childhood)						科目分類	専門科目													
担 当 教 員	中村 淳子																				
履 修 条 件	前提科目	なし																			
	そ の 他	なし																			
授業概要： 発達心理学の中で幼児期及び児童期に焦点を当てて学習し、理解を深めていく。人間形成の基礎となる時期であることから各理論の解説だけでなく、この時期の問題点等についても具体例を示しながら講義する。																					
授業目標： 1. 乳幼児期から児童期における発達の特徴を知り、発達支援の手立てを考える。 2. 生涯発達の視点からこの時期の環境要因と生理的要因の関係性を多角的に考える。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養														
◎			○																		
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	幼児期・児童期の心理とは？ 一本講義の概要					事前：シラバスの確認 事後：何を学ぶかを整理する		講義 50分 質疑 40分													
2	乳幼児期・児童期の位置づけと心理的特徴					事前：資料を読む 事後：心理的特徴のまとめ		講義 70分 振り返り 20分													
3	乳幼児期・児童期の身体と運動の発達 (1) 身体の発育課程					事前：資料を読む 事後：身体発達過程のまとめ		講義 70分 振り返り 20分													
4	乳幼児期・児童期の身体と運動の発達 (2) 運動の発達					事前：資料を読む 事後：運動発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分													
5	乳幼児期・児童期の認知発達 (1) 知覚と記憶の発達					事前：資料を読む 事後：知覚・記憶の発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分													
6	乳幼児期・児童期の認知発達 (2) 思考の発達					事前：資料を読む 事後：知能・思考発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分													
7	言語の発達					事前：資料を読む 事後：討議内容のまとめ		講義 50分 討議 40分													
8	情動の発達					事前：資料を読む 事後：情動発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分													
9	愛着形成の発達―親子関係の成立					事前：資料を読む 事後：親子関係の考察		講義 40分 演習 50分													
10	パーソナリティの発達					事前：資料を読む 事後：性格形成のまとめ		講義 70分 振り返り 20分													
11	乳幼児期・児童期の生活パターンと発達					事前：資料を読む 事後：生活パターンと生理のまとめ		講義 70分 振り返り 20分													
12	遊びの発達					事前：資料を読む 事後：遊びの原理のまとめ		講義 30分 発表 60分													
13	社会性の発達―事例の理解					事前：資料を読む 事後：社会性発達のまとめ		講義 30分 発表 60分													
14	発達の社会・文化的要因					事前：資料を読む 事後：文化的影響のまとめ		講義 30分 発表 60分													
15	発達の基礎理論とまとめ					事前：資料を読む 事後：全講義のまとめ		講義 70分 振り返り 20分													
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。										参考文献： 岩井邦夫他共著 グラフィック乳幼児心理学 サイエンス社 藤本浩一他共著 読んでわかる児童心理学 サイエンス社											
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらう時間も用意します。また、単元によっては前もって発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。中村から質問したり、学生からの意見を受けたりなど活気のある授業にしたいと思います。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。																					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																					

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	幼児理解（Understanding Early Childhood Children）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大沢 裕								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 幼児を理解するためには、まず子どもとはどのような存在かを把握し、幼児期の特徴、幼児の生活の傾向を知る必要がある。本講義では、幼児期の特徴とはどのようなものかを理解させ、一人ひとりの子どもの心情・意欲・態度、個と集団のとらえ方のポイントを教授する。保育現場に立つ学生たちが幼児の内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向け、発達の課題に即した指導が可能となるよう支援する。具体的な事例を示しつつ、幼児の発達観を習得させ、共感的理解の基礎を培い、実践力を培うよう指導する。授業形態は、講義とグループ討論が主体となる。									
授業目標： 幼児理解のための基礎理論を習得し、具体的な事例を通じて、幼児の発達段階のとらえ方、幼児の遊びや生活、幼児の興味・関心、個と集団を捉える見方を育成する。共感的理解の基礎を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	幼児教育のための基本的な幼児理解の必要性…カリキュラムマネジメントの視点から教科書の構造とのつながりが理解できるよう質問時間をとって発言を促す。					事前：授業用ファイル準備 事後：教科書を必ず購入		講義 90 分	
2	3 歳児の発達と理解 1－初めての集団生活・安定から自己発揮まで－ 3 歳児の特徴について発表する。					事前：教科書を読んでおく 事後：プリントに記入		講義 90 分	
3	3 歳児の発達と理解 2－依存から自立へ・自分でできる喜び－ 3 歳児にふさわしい環境について考えを出し合う。					事前：教科書復習 事後：プリント記入		講義 90 分	
4	具体的な発達の捉え方・3 歳児のビデオ視聴後グループ協議し、幼児の気持ちの理解を深め、レポートにまとめる。					事前：プリント記入 事後：レポート完成		講義 60 分・ グループ協議 30 分	
5	4 歳児の発達と理解 1－友達への関心の広がりを視点として－ 4 歳児の特徴について調べてきたことを発表する。					事前：教科書を読んでおく 事後：プリント記入		講義 90 分	
6	4 歳児の発達と理解 2－体験の広がりを視点として－ 4 歳児にふさわしい環境について考えを出し合う。					事前：教科書復習 事後：プリント記入		講義 90 分	
7	幼児の活動に対する肯定的な見方の意義・4 歳児のビデオ視聴後グループ協議し、幼児の気持ちと教師の援助についてレポートにまとめる。					事前：プリント記入 事後：レポート完成		講義 60 分・ グループ協議 30 分	
8	5 歳児の発達と理解 1－協同性の育ちに向けて－ 5 歳児の特徴について調べてきたことを発表する。					事前：教科書を読んでおく 事後：プリント記入		講義 90 分	
9	5 歳児の発達と理解 2－小学校への接続期の理解に向けて－ 5 歳児にふさわしい環境について考えを出し合う。					事前：教科書復習 事後：プリント記入		講義 90 分	
10	個と集団の関係の捉え方・5 歳児のビデオ視聴後、グループ協議し、幼児の気持ちと教師の援助のあり方についてレポートにまとめる。					事前：プリント記入 事後：レポート完成		講義・グループ協議	
11	幼児の遊び・生活の意味の理解 実際の幼稚園の保育参観を通して気付いたことを発表する。					事前：なし 事後：振り返りをする		保育参観 90 分	
12	教師の姿勢と子どもに対する共感的理解・実践例のビデオ視聴し、幼児の気持ちの理解と教師の援助のあり方について考察しレポートにまとめる。					事前：なし 事後：レポート完成		保育参観 90 分	
13	特別に支援を必要とする子どもの理解・実践例から具体的な環境構成と援助について考える。 環境の工夫からできる支援についてグループで協議し発表する。					事前：実践例を読んでおく 事後：振り返り		講義 60 分・ グループ協議 30 分	
14	保育の改善の視点－保育記録・評価方法の実際－ 様々な保育の記録があることを知る。					事前：教科書を読んでおく 事後：プリントの振り返り		講義 90 分	
15	保護者の心情理解と基礎的な対応の方法について考える。 教科書の事例から考えを出し合う。					事前：教科書を読んでおく 事後：振り返りをする		講義 90 分	
教本： 大沢裕『新版 幼児理解』一藝社					参考文献： 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』（最新版）				
成績評価の方法、評価基準： 保育者として持つべき子ども観を修得し、発達段階に即して子どもを把握することができるか、子どもの生活の特徴、個と集団の関係から子どもを理解する基礎力を習得したかを、グループ討議の成果、複数回のレポート内容等、総合的に評価し、平常点も加味する。。									
学生へのアドバイス： 3、4、5 歳児の発達段階の違いを学べるよう実際の園でのボランティアなどもおすすめします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ヨーロッパ観光論 (European Tourism Studies)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安 本 達 式								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ヨーロッパの観光の特性を歴史・文化的背景、観光資源の特性から考察する。									
授業目標： 1. ヨーロッパ観光の特性を理解する。 2. アジアなど他地域との差異を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイドンス・ヨーロッパ観光論で学ぶことを説明する。					事前：なし 事後：ヨーロッパ観光概観		講義 60分、質疑 20分、感想コメント記入 10分	
2	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】ヨーロッパにおける観光の起こりと発達について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光史の下調べ 事後：歴史的背景の考察		講義 80分、小テスト 10分	
3	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】ヨーロッパのツーリズム形態の変遷について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光文化の下調べ 事後：文化的背景の考察		講義 80分、小テスト 10分	
4	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】UNWTOの世界観光指標より、ヨーロッパへの国際観光到達数、観光収入などについて解説する。その内容について小テストを行う。					事前：データの下調べ 事後：ヨーロッパ観光の規模の考察		講義 80分、小テスト 10分	
5	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】これまで学習してきた内容をもとに、グループディスカッションを行い、代表から発表を行う。					事前：ディスカッション準備 事後：発表内容の考察と批評		講義 30分、ディスカッション 40分、発表 20分	
6	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの観光資源の特性の全体像を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：世界遺産の下調べ 事後：風土と資源の特性考察		講義 80分、小テスト 10分	
7	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの世界遺産にみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：世界遺産の下調べ 事後：歴史的資源の特性考察		講義 80分、小テスト 10分	
8	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの建築様式にみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：西洋建築様式の下調べ 事後：文化的資源の特性考察		講義 80分、小テスト 10分	
9	【ヨーロッパの観光資源の特性】スペイン・パラドールにみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：パラドールの下調べ 事後：宿泊施設の特性考察		講義 80分、小テスト 10分	
10	【ヨーロッパの観光資源の特性】イタリア・アルベルゴ・ディフューゾにみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：アルベルゴデフューゾの下調べ 事後：滞在型観光の特性考察		講義 80分、小テスト 10分	
11	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパのワインツーリズムにみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：ワインツーリズムの下調べ 事後：食と観光の特性考察		講義 80分、小テスト 10分	
12	【ヨーロッパの観光地の特性】これまで学習してきた内容をもとに、グループディスカッションを行い、代表から発表を行う。					事前：ディスカッション準備 事後：発表内容の考察と批評		講義 30分、ディスカッション 40分、発表 20分	
13	【ヨーロッパの観光地の特性】スペインの観光地を事例にその特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：スペイン観光の下調べ 事後：観光地形成事例の考察		講義 80分、小テスト 10分	
14	【ヨーロッパの観光地の特性】ポルトガルの観光地を事例にその特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：ポルトガル観光下調べ 事後：観光地形成事例の考察		講義 80分、小テスト 10分	
15	まとめ・これまでの学習及びディスカッションの内容をもとに、今後考えていくべきことをまとめる。					事前：配布プリントの再読 事後：今後の探求方向の考察		講義 70分、小レポート 20分	
教本： 各回プリント配布。					参考文献： 適宜紹介。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光の背景となる歴史や文化の違いに着目し、ヨーロッパの観光の魅力を考えてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ヨーロッパ文化研究A（European Studies A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 特に英国に焦点をあててヨーロッパの文化について考えます。毎回ワークシートとしてハンドアウトを配布します。また、授業の20分位を当てて、現代の英国についてテキストを読みます。									
授業目標： 英国について学びながら、広くヨーロッパへの理解を深めることが目標です。テキストとハンドアウトは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Intoroduction to Europe					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
2	Chapter 1 The Prehistoric Past: Before about 6000BC					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
3	Chapter 1 The Prehistoric Past: About 1200BC					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
4	Chapter 2 Roman Britain: Settlement, Agriculture					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
5	Chapter 2 Roman Britain: Towns, Trade, Industry					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
6	Chapter 2 Roman Britain: Communications					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
7	Chapter 3 Saxons, Scots and Vikings: Settlement					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
8	Chapter 3 Saxons, Scots and Vikings: Agriculture					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
9	Chapter 3 Saxons, Scots and Vikings: Towns, Trades, Industry					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
10	Chapter 3 Saxons, Scots and Vikings: Government, Justice, Communications, Education					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
11	Chapter 4 Feudal Britian: Settlement					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
12	Chapter 4 Feudal Britain: Agriculture					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
13	Chapter 4 Feudal Britain: Towns, Trade, Industry					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
14	Chapter 4 Feudal Britain: The Social System, Government, Justice					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
15	Chapter 4 Feudal Britain: Communications, Education					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
教本： Wellcome to Britain Tim Knight 音羽書房鶴見書店 ￥1800（税別）									
参考文献： 『ヨーロッパとは何か』 増田四郎 岩波新書 ￥700（税別）									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 絵画を見て視覚的に西欧の文化をとらえたり、また音楽を聴いたりすることも、西欧のものの見方を楽しく理解し興味を持つ動機付けになると思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ヨーロッパ文化研究B（European Studies B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 特に英国に焦点をあててヨーロッパの文化について考えます。毎回ワークシートとしてハンドアウトを配布します。また、授業の20分位を当てて、現代の英国についてテキストを読みます。									
授業目標： 英国について学びながら、広くヨーロッパへの理解を深めることが目標です。ハンドアウトとテキストは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction to Englishes:「英語はどこ国のことば？」 Chapter 5 Later Middle Ages: Sttlement, Towns, Trade, Industry					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
2	Chapter 5 Later Middle Ages: Buldings, Social System, Government, Justice					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
3	Chapter 5 Later Middle Ages: War and Defence, Religion, Communications, Education					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
4	Chapter 6 The Renaissance and Reformation: Settlement					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
5	Chapter 6 The Renaissance and Reformation: Agriculture, Towns, Trade, Industry					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
6	Chapter 6 The Renaissance and Reformation: Buildings, Social System, Government, Justice					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
7	Chapter 6 The Renaissance and Reformation: Religion, Education, Communications					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
8	Chapter 7 The Seventeenth Century: Settlement, Towns, Trade, Industry, Buildings, Social System					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
9	Chapter 7 The Seventeenth Century: Government, Justice, Religion, Communications, Education					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
10	Chapter 8 The Eighteen Century: Settlement, Agriculture, Industry					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
11	Chapter 8 The Eighteenth Century: Social System, Government, War, Religion, Communications, Education					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
12	Chapter 9 The Age of Industrial Revolution: Settlement, Agriculture, Towns, Trade, Industry					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
13	Chapter 9 The Age of Industrial Revolution: Social System, Government, Justice					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
14	Chapter 9 The Age of Industrial Revolution: War, Religion, Communications, Education					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
15	Chapter 10 Modern Times: Settlement, Agriculture, Towns, Trade, Industry, Government, Justice					事前：ハンドアウト 事後：テキスト関連箇所		講義45分 ワークシート記入45分	
教本： Wellcome to Britain Tim Knight 音羽書房鶴見書店 ￥1800（税別）									
参考文献： 『ヨーロッパとは何か』増田四郎 岩波新書 ￥700（税別）									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ハンドアウトはできるだけ前もって配布するようにしますので、目を通してよくわからないところに印をつけて授業に臨んでもらえれば、と思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	吉田松陰論（The Philosophy of Yoshida Shoin）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	増田 裕彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本学の教育理念である「知行合一」を実践した吉田松陰は、わずか三〇歳でこの世を去った。しかし、松下村塾において維新の芽を育て、多くの志士を世に送り出し、短くとも多くのことを成した松陰の生涯から、「知行合一」とは何か、「教育」とは何かを思考するとともに、本学で学ぶ意義と誇りを修得する。									
授業目標： 吉田松陰の教育について理解し、松下村塾から輩出した志士や明治期の指導者を確認し、幕末の歴史を振り返ります。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）						事前・事後学習(学習課題)		授業形態
1	ガイダンス 松蔭大学の建学精神と理念 「知行合一」 ■松陰が教えてくれること。■指導者の輩出						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
2	毛利氏と厚木のかかわり あまり知られていない毛利氏の始祖と厚木のかかわりについて紹介します						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
3	生い立ちと修業時代 山鹿流兵学師範杉家と吉田家 六歳で吉田家を継ぎ山鹿流兵学を習う。■松陰の誕生と藩校への出仕について						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
4	脱藩と密航 武士の一諾を貫くことによって脱藩、そして密航に至るまでをふりかえる。 ■遊学と脱藩 西洋兵学、軍学、海外情勢を知る						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
5	獄中教育から生まれた『講孟余話』野山獄によって教育への覚醒。 そして「松下村塾」へ						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
6	「松下村塾」誕生～理念と教育 ① ■松下村塾の人の育て方 ■「知行合一」の教え ■個性を伸ばす						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
7	「松下村塾」誕生～理念と教育 ② ■「師弟同行」の教育 ■志が最も大切 ■学問のめざすものは						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
8	松下村塾の「四天王」久坂玄瑞・高杉晋作・吉田稔麿・入江九一 玄瑞と文 孤独な玄瑞と松陰の妹の婚姻						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
9	安政の大獄 大老井伊直弼による幕府の立て直しと反幕府勢力への打撃について						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
10	老中暗殺計画と「草莽崛起」 無勅許の日米修好条約から諫幕から倒幕へ、そして老中間部詮勝暗殺を計画。						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
11	幕府奉行を震撼させた自白 取り調べ内容と幕府は掌握していなかった計画						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
12	門下生への遺書としての『留魂録』読み解くための松陰の一生をおさらい						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
13	松陰の名言 20						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
14	維新に活躍した門下生たち ①伊藤博文、②山形有朋 ④楫取素彦 友人 桂小五郎(木戸孝允)						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
15	近代日本への変革と松陰の思想とまとめ						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
教本： プリント及び『看護師のための松陰流人材育成術』長谷川勤著・日本医療企画 ¥1.650					参考文献： 『松陰と幕末・明治の志士たち』長谷川勤著・NHK 出版 『留魂録』古川薫著・講談社学術文庫				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	リスク危機マネジメント基礎論 (Fundametal Study of Risk and Crisis Management)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： リスク危機マネジメントの狙いは、定められた使命や目標を達成するため、ときにはリスクを低減しあるいはリスクを取り、また、危機に遭遇した時はその被害が最小となるように危機対応を行い、全体として最小の被害やコストで使命や目標を達成することです。この授業では、リスク危機マネジメント論のうち、それを実行するための手法の一般的な基本を学びます。 理解の進行度合いによって授業の進め方はかなり柔軟に変更することがあります。									
授業目標： リスク危機マネジメントの標準的な方法論の基礎知識を習得することを目標とします。 リスク危機マネジメント論の原理的な考え方や応用などは、「リスク危機マネジメントⅡ」において学習します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション（授業のやり方、学生評価の考え方など） リスク危機マネジメントの必要性など				事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
2	リスク、危機について リスク危機マネジメントの手順 リスク段階の業務実施の考え方				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
3	リスクのリストアップと優先的にリスク危機マネジメントを実施すべき対象の選定				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
4	リスクの内容の粗い分析と対処方針の決定				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
5	リスク分析				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
6	リスクの軽減方策の策定と実行				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
7	危機に備えた準備(マニュアルなど)				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
8	リスクの監視、モニターとリスクコミュニケーション				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
9	危機の認知と危機対応行動				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
10	危機克服行動その 1				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
11	危機克服行動その 2				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
12	クライシスコミュニケーション及び危機対応のバックアップ機能（ロジスティクス、待機予備など）				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
13	危機対応行動および危機克服行動の終了と危機対応のフォローアップ				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
14	リスク危機マネジメントの全体マネジメント				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
15	まとめ				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
教本： リスク危機マネジメントのすすめ 宮林正恭著 丸善出版					参考文献： 必要に応じ授業の際に指示します。				
成績評価の方法、評価基準： 評価の配分基準：授業への積極的な参加およびその内容（60%）、試験（40%）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： この授業では、リスク危機マネジメントの手法を身につけることに重点を置いています。その手法の背景にある原理的な考え方、それを活用する際の考慮しなければならない事項、リスク危機マネジメントの全体的な考え方、応用などについては、「リスク危機マネジメントの考え方と応用（リスク危機マネジメント基礎論Ⅱ）」の授業で学習します。リスク危機マネジメントの総合的な力を身に付けるためには「リスク危機マネジメントの考え方と応用（リスク危機マネジメント基礎論Ⅱ）」を履修することが強く推奨されます。 パソコンを使わず、スマートフォンのみで資料を調べたりレポートを書いたりする学生さんがいますが、大きな図表なども全体として理解できないことになりがちであり、結局能率が上がらないことが多いのです。中古品や安い製品で良いから、PC を入手して能率的な学習をして欲しいと思います。 授業は欠席しないこと、これが最も大切です。									
オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯にきてください。あらかじめ、電話またはメールで、あるいは、研究室へのメッセージの投函で事前連絡をくれるとありがたいのです。電話番号は080-4732-3423、メールアドレスはmmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室は3810室です。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	リスク危機マネジメント基礎論Ⅰ（Fundametal Study of Risk and Crisis ManagementⅠ）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： リスク危機マネジメントの狙いは、定められた使命や目標を達成するため、ときにはリスクを低減しあるいはリスクを取り、また、危機に遭遇した時はその被害が最小となるように危機対応を行い、全体として最小の被害やコストで使命や目標を達成することです。この授業では、リスク危機マネジメント論のうち、それを実行するための手法の一般的な基本を学びます。 理解の進行度合いによって授業の進め方はかなり柔軟に変更することがあります。									
授業目標： リスク危機マネジメントの標準的な方法論の基礎知識を習得することを目標とします。 リスク危機マネジメント論の原理的な考え方や応用などは、リスク危機マネジメントⅡにおいて学習します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態	
1	オリエンテーション（授業のやり方、学生評価の考え方など） リスク危機マネジメントの必要性など			事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
2	リスク、危機について リスク危機マネジメントの手順 リスク段階の業務実施の考え方			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
3	リスクのリストアップと優先的にリスク危機マネジメントを実施すべき対象の選定			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
4	リスクの内容の粗い分析と対処方針の決定			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
5	リスク分析			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
6	リスクの軽減方策の策定と実行			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
7	危機に備えた準備(マニュアルなど)			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
8	リスクの監視、モニターとリスクコミュニケーション			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
9	危機の認知と危機対応行動			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
10	危機克服行動その 1			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
11	危機克服行動その 2			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
12	クライシスコミュニケーション及び危機対応のバックアップ機能（ロジスティクス、待機予備など）			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
13	危機対応行動および危機克服行動の終了と危機対応のフォローアップ			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
14	リスク危機マネジメントの全体マネジメント			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
15	まとめ			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
教本： リスク危機マネジメントのすすめ 宮林正恭著 丸善出版				参考文献： 必要に応じ授業の際に指示します。					
成績評価の方法、評価基準： 評価の配分基準：授業への積極的な参加およびその内容（60％）、試験（40％）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： この授業では、リスク危機マネジメントの手法を身につけることに重点を置いています。その手法の背景にある原理的な考え方、それを活用する際の考慮しなければならない事項、リスク危機マネジメントの全体的な考え方、応用などについては、「リスク危機マネジメントの考え方と応用（リスク危機マネジメント基礎論Ⅱ）」の授業で学習します。リスク危機マネジメントの総合的な力を身に付けるためには「リスク危機マネジメントの考え方と応用（リスク危機マネジメント基礎論Ⅱ）」を履修することが強く推奨されます。 パソコンを使わず、スマートフォンのみで資料を調べたりレポートを書いたりする学生さんがいますが、大きな図表なども全体として理解できないことになりがちであり、結局能率が上がらないことが多いのです。中古品や安い製品で良いから、PC を入手して能率的な学習をして欲しいと思います。 授業は欠席しないこと、これが最も大切です。									
オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。あらかじめ、電話またはメールで、あるいは、研究室へのメッセージの投函で事前連絡をくれるとありがたいです。電話番号は080-4732-3423、メールアドレスはmmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室は3810室です。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	リスク危機マネジメント基礎論Ⅱ（Fundametal Study of Risk and Crisis ManagementⅡ）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	1 年前期の必修科目リスク危機マネジメント方法論を履修していること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： リスク危機マネジメントの原理論的考え方、関連領域の取り扱い方、特に留意しなければならない事項など、リスク危機マネジメント基礎論Ⅰで学んだその手法を実際に活用するために理解しておくべき基本原理などを学ぶとともに、その応用についても初歩的な事項を学ぶ。特に学生たちが将来身近にリスクおよび危機として取り扱い取り扱う可能性が非常に高い、金融商品のリスク、組織内におけるいろいろなリスクについて各論として取り上げる。理解の進行度合いによって授業の進め方はかなり柔軟に変更する予定。一部演習あり。									
授業目標： リスク危機マネジメントの背景にある考え方、基本原理などを知り、応用力を身に着ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション（授業のやり方、学生評価の考え方など） リスクや危機の性質				事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
2	リスクやその発現に関する考え方				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
3	リスクや危機と人間及びその環境の影響				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
4	リスク、危機およびマネジメントと社会				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
5	リスク危機マネジメントの基本的考え方				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
6	リスクアセスメント・リスク分析手法				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
7	リスク対応の方法論				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
8	リスクコントロール及びリスクの監視				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
9	危機対応アプローチ				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
10	危機対応の現場論、危機の終焉及びそのフォローアップならびに危機との共存				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
11	リスク危機マネジメントのリーダーシップと責任体制				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
12	個人におけるリスク危機マネジメント（金融商品の取り扱い）				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
13	組織におけるリスク危機マネジメントと人間関係				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
14	社会としてのリスク危機マネジメント				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
15	まとめ				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
教本： リスク危機マネジメントのすすめ 宮林正恭著 丸善出版					参考文献： 授業の途中で指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 評価の配分基準：授業への積極的な参加およびその内容（提出物を含む。）（60％）、最終試験又は最終レポート（40％）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 授業を欠席しないことが最も大切です。授業を休むと後で非常に苦勞することになります。 概念や原理的事項、背景にある考え方、考慮事項などを理解することを楽しみ、リスク危機管理の手法を活用する能力を身に付けてください。そしてそれを人生の処し方に生かしてほしいものです。 また、金融投資などは今後年金支給の縮小に伴って非常に重要なリスク管理項目になります。そのような知識を身につけることもこの授業で予定しています。									
オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。可能な限り、電話またはショートメールで事前に連絡をくれるとありがたい。連絡先：080-4732-3423 メールドレス mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室3810室。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	リスク危機マネジメントの考え方とその応用（Applied Study of Risk and Crisis Management）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	1 年前期の必修科目リスク危機マネジメント方法論を履修していること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： リスク危機マネジメントの原理論的考え方、関連領域の取り扱い方、特に留意しなければならない事項など、リスク危機マネジメント基礎論Ⅰで学んだその手法を実際に活用するために理解しておくべき基本原理などを学ぶとともに、その応用についても初歩的な事項を学ぶ。特に学生たちが将来身近にリスクおよび危機として取り扱い取り扱う可能性が非常に高い、金融商品のリスク、組織内におけるいろいろなリスクについて各論として取り上げる。理解の進行度合いによって授業の進め方はかなり柔軟に変更する予定。一部演習あり。									
授業目標： リスク危機マネジメントの背景にある考え方、基本原理などを知り、応用力を身に着ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション（授業のやり方、学生評価の考え方など） リスクや危機の性質				事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
2	リスクやその発現に関する考え方				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
3	リスクや危機と人間及びその環境の影響				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
4	リスク、危機およびマネジメントと社会				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
5	リスク危機マネジメントの基本的考え方				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
6	リスクアセスメント・リスク分析手法				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
7	リスク対応の方法論				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
8	リスクコントロール及びリスクの監視				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
9	危機対応アプローチ				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
10	危機対応の現場論、危機の終焉及びそのフォローアップならびに危機との共存				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
11	リスク危機マネジメントのリーダーシップと責任体制				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
12	個人におけるリスク危機マネジメント（金融商品の取り扱い）				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
13	組織におけるリスク危機マネジメントと人間関係				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
14	社会としてのリスク危機マネジメント				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
15	まとめ				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60 分、 ディスカッション 30 分	
教本： リスク危機マネジメントのすすめ 宮林正恭著 丸善出版					参考文献： 授業の途中で指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 評価の配分基準：授業への積極的な参加およびその内容（提出物を含む。）（60％）、最終試験又は最終レポート（40％）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 授業を欠席しないことが最も大切です。授業を休むと後で非常に苦勞することになります。 概念や原理的事項、背景にある考え方、考慮事項などを理解することを楽しみ、リスク危機管理の手法を活用する能力を身に付けてください。そしてそれを人生の処し方に生かしてほしいものです。 また、金融投資などは今後年金支給の縮小に伴って非常に重要なリスク管理項目になります。そのような知識を身につけることもこの授業で予定しています。									
オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。可能な限り、電話またはショートメールで事前に連絡をくれるとありがたい。連絡先：080-4732-3423 メールドレス mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室3810室。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	リ ス ク 心 理 学 (Psychology of Risk Perception of Human Behavior)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 新聞やテレビ等のマスメディアでは、大地震の発生のリスクや金融リスク等が日々報じられ、自然環境や社会・政治場面、あるいは企業組織が内在するリスクから、人間一人一人が行う判断過程や行動面に対しても「リスク」という言葉が用いられている。本授業では、各個人が行う判断過程や行動を起こす際に生じる「リスク」を取り上げ、その構造を考える。授業形式は、講義を主体とするが、随時、討議や実習を含んで「分かる授業」を目指す。									
授 業 目 標 : ①「リスク」に関する定義や考え方が理解できる、②リスクに対する主観的な評価・見積もり（risk perception）の仕組みが理解できる、③リスクに対する認知から、リスク軽減やリスク回避の仕組みが理解できるまでを、到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	社会現象として生じるリスクとは何か、リスクの種類を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	組織が抱えるリスク、すなわち組織過誤の事例を基に企業組織に潜在するリスクを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	産業場面で発生する労働災害の推移を学ぶと共に、企業トップが冒す判断誤りの過程を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	産業場面では多くの人が協同して働いており、対人関係からくる衝突（対人関係がもたらすリスク）を回避するためには、各人の性格やパーソナリティ特性をと何かを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	産業場面においては、事故が少ない人と事故を引き起こすことが多い人がいる。事故多発者のパーソナリティ特性を理解すると共に、多面評価法（自己評価法と他者評価法）を用いて、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
7	「安全」と「リスク」の定義を考えることに加え、実際に産業場面で使用されている active safety、passive safety の定義と方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	ヒューマンエラーの発生過程を認知心理学の視点から、大脳で行われている内部情報処理過程の働きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	連続作業の下で生じる「注意—不注意」のあり方を学び、我々が行う注意行動に潜むリスクを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、我々が環境を見ていく際の目の配り方と情報摂取のあり方を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
11	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組みを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	連続作業の下で生じる生理的な変動要因を、サーカディアンリズムに連動する大脳覚醒水準の低下が事故を引き起こすリスク要因であることを理解する。加えて、履修生各自が体験した失敗事例を記述し、レポートとして提出する（宿題）。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 深澤伸幸「ヒューマンエラーの心理学入門－発生過程の理解と対策－」（株）杏林舎、¥2,300	参考文献：
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1／3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	旅行会社経営論Ⅰ（Travel Business ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 映像でイメージを掴み、旅行業現状を理解し、新たなビジネスモデルを模索する。									
授業目標： 旅行業の経営がわかり、新たな発展の方策を考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読む		講義 90分	
2	旅行業の成り立ち（Ⅰ）： 近代旅行業、業界勢力図、業界トレンドなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
3	旅行業の成り立ち（Ⅱ）： 旅行業法、企画旅行と手配旅行の違いを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
4	旅行業の成り立ち（Ⅲ）： 旅行企画、ソリューション営業、イベント・コンベンションなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
5	旅行業の成り立ち（Ⅳ）： 旅行業のやりがい、転職・独立、職種などについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
6	旅行業界がわかる（Ⅰ）： 国内・海外旅行市場、個人旅行、団体旅行、訪日外国人旅行、ネット販売などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
7	旅行業界がわかる（Ⅱ）： パッケージ旅行、格安航空券、多角化経営、業界概略などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
8	旅行業界がわかる（Ⅲ）： 専門特化型旅行社、ネット旅行社、楽天トラベル、HISなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
9	旅行業界がわかる（Ⅳ）： クルーズ、ロングステイ、海外旅行先ランキングなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
10	旅行業界がわかる（Ⅴ）： ロケ地巡り、海外ウエディング、スポーツ観戦、バリアフリーなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
11	旅行業界がわかる（Ⅵ）： シニアツアー、新コンセプト旅行、チャーター便、インターネット直販などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
12	旅行業界がわかる（Ⅶ）： バーチャルカウンター、ダイナミックパッケージ、エクスぺディア、グローバル観光戦略などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
13	クラブツーリズムの経営（Ⅰ）： 旅の通販、添乗の活用などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
14	クラブツーリズムの経営（Ⅱ）： 同社のデータマーケティング、旅の友、ミッション経営、企業の社会貢献などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
15	星野リゾート研究： ホテル、旅館の経営立て直しのための戦略を研究し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ￥2,000＋税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 楽しく学ばなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	旅行会社経営論Ⅱ（Travel Business Management Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	旅行業Ⅰを同時履修か、過去に履修したことがある。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 映像でイメージを掴み、旅行業現状を理解し、新たなビジネスモデルを模索するために討議する。									
授業目標： 旅行業の経営がわかり、新たな発展の方策を考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	旅行企画の方法 (Ⅰ)： 海外旅行の未来戦略、観光立国、ツアープランナー、脱価格競争などを考察し、討議する。					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
2	旅行企画の方法 (Ⅱ)： 情報収集、現地調査、SIT、政府観光局との共働などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
3	旅行企画の方法 (Ⅲ)： パッケージツアーの創り方、理性と感情に訴える旅行パンフレットの作り方などを考え発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
4	旅行企画の方法 (Ⅳ)： 顧客満足、広報活動、ツアコン、ツアー価格などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
5	旅行企画の方法 (Ⅴ)： 日本人の英語、観光局との共働、コミュニティ・ツーリズム、サステナブル・ツーリズムなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
6	訪日外国人ビジネス： 日本のインバウンド、観光立国、クールジャパン、ゴールデンルートなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
7	ビジネスモデル (Ⅰ)： メディア販売、航空のグローバルアライアンスなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
8	ビジネスモデル (Ⅰ)： JTBの世界戦略を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
9	ビジネスモデル (Ⅰ)： 店頭販売における低価格販売、付加価値創造、経験価値マーケティングなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
10	ビジネスモデル (Ⅰ)： メディカル・ツーリズム、まちづくりなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
11	ビジネスモデル (Ⅰ)： ホテル、テーマパーク、癒しブームなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
12	カジノ運営： インテグレイテッド・リゾート、カジノ解禁のメリット・デメリットを考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
13	イベント&コンベンション (Ⅰ)： 国際会議と博覧会、ショーオーガナイザー、博覧会プロデューサーなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
14	イベント&コンベンション (Ⅱ)： MICE 市場、PCO、イベント・オーガナイザーなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
15	旅行業の課題： 市場の変化、成熟社会、マスツーリズムなど、を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ￥2,000＋税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 楽しく学ばなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	旅 行 業 務 基 礎 I （Travel Business Basics I）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： ・ 解 説 し、過 去 の 問 題 を 解 き な が ら 理 解 を 深 め る。 ・ 観 光 の し く み を 学 び、自 力 で 調 査 す る 能 力 を 身 に つ け る。									
授 業 目 標： 毎年 9 月 に 行 わ れ る 国 家 試 験 「 国 内 旅 行 業 務 取 扱 管 理 者 試 験 」 合 格 基 準 点 の 取 れ る レ ベ ル の 知 識 と 理 解 力 を 持 つ こ と を 目 指 す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎							○		
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	旅行業法を理解し、グループで問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
3	「日本の祭り」の特徴を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
4	旅行業約款を理解し、グループで問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
5	「日本の伝統工芸品」の特徴を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
6	運送・宿泊約款を理解し、グループで問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
7	「ラムサール条約」を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
8	鉄道の運賃規則を理解し、問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
9	「日本の世界遺産」を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
10	JR 運賃・料金を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
11	「日本の文学作品」を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
12	宿泊・フェリー・バスの規則を理解し、問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
13	「陶磁器・漆器」を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
14	国内航空の規則を理解し、問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
15	「郷土料理・特産品」を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
教 本： 講義時にプリントを配布する。					参 考 文 献： 授業時に随時紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 定 期 試 験 （ 60% ）、平 常 点 （ 40% ） で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 復 習 を 行 う こ と、欠 席 を し な い こ と を 希 望 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	旅行業務基礎Ⅱ（Travel Business Basics Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 解説し、過去の問題を解きながら理解を深める。									
授業目標： 「総合旅行業務取扱管理者試験」の「海外旅行実務」を取り上げ、国家試験の合格を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション アメリカ・カナダの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：なし		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
2	国際航空運賃 旅券法を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
3	出入国法令と実務 1 アジアの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
4	出入国法令と実務 2 入管法・検疫法を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
5	出入国法令と実務 3 アジアの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
6	海外旅行実務 1 通関に関する規則を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
7	海外旅行実務 2 欧州の観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
8	海外観光地理 1 出入国手続きを知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
9	海外観光地理 2 欧州の観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
10	海外観光地理 3 時差の計算方法を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
11	海外観光地理 4 中東アフリカの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
12	海外観光地理 5 国際航空運賃の規則を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
13	海外観光地理 6 中南米・豪州の観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
14	海外観光地理 7 観光英語の基礎をマスターし、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
15	まとめ 世界の食を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
教本： 講義時にプリントを配布する。					参考文献： 授業時に随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（60%）、平常点（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 復習を行うこと、欠席をしないことを希望します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	旅行業論Ⅰ（Travel IndustryⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 映像によりイメージを掴んだ上で、旅行業を概括し、旅行業に特有な経営形態や商品の特性を理解し、その商品がどのように企画・造成され、どのような市場で、どのように販売されているかを把握する。更に、旅行業に関わる法律が消費者をどのように保護しているかを討議する。									
授業目標： 旅行業経営と商品特性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	旅行業概観： 旅行業の歴史や旅行業の意義や機能などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
3	旅行業とは： 旅行業法上の旅行業や旅行業の現状などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
4	旅行市場： 国内旅行・海外旅行・訪日外国人の市場規模、旅行会社の課題などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
5	旅行業経営： 日本の旅行業の経営特質や問題点などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
6	販売戦略： 旅行業の商品とその販売方法や店舗政策などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
7	商品部門別業務： 国内旅行、海外旅行の部門別業務内容などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
8	販売形態： 店頭販売、団体営業、メディア販売などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
9	主要市場における営業活動（Ⅰ）： パッケージツアー、教育旅行、業務旅行、視察旅行などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
10	主要市場における営業活動（Ⅱ）： イベント・コンベンション、海外ウエディング・マーケットなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
11	業務別にみた営業内容： ホールセラー、リテラー、ツアーオペレーターなどの営業を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
12	旅行業のマーケティング： 旅行業のマーケティングの特徴を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
13	旅行業関連法令： 旅行業法の変遷、旅行業約款などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
14	ニューツーリズムとは： エコツーリズム、グリーンツーリズム、産業観光などを理解し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
15	観光政策と観光： 観光行政、観光立国宣言、観光基本法などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 高橋秀夫著「クラブツーリズム研究」毎日新聞社 ￥1,800+税 2. 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ￥2,000+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 旅行業界で活躍したい人、旅行好きの人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	旅行業論Ⅱ（Travel Industry Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	旅行業Ⅰを同時履修か、過去に履修したことがある。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 映像によりイメージを掴んだ上で、旅行業を概括し、旅行業に特有な経営形態や商品の特性を理解し、その商品がどのように企画・造成され、どのような市場で、どのように販売されているかを把握する。更に、旅行業に関わる法律が消費者をどのように保護しているかを討議する。									
授業目標： 旅行業経営と商品特性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	旅行業界を取り巻く環境 (Ⅰ)： LCCのビジネス・モデル、アウトバウンドとインバウンドの状況などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
2	旅行業界を取り巻く環境 (Ⅱ)： 旅行商品の特性や流通の仕組みなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
3	旅行業界を取り巻く環境 (Ⅲ)： 旅の3要素、旅行商品の特性、旅行会社の機能などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
4	旅行業界を取り巻く環境 (Ⅳ)： 旅行業の現状、旅行会社の経営状況などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
5	旅行業界を取り巻く環境 (Ⅴ)： ホールセラー会社、インターネットネット販売などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
6	売れる旅行商品 (Ⅰ)： 旅行商品の7つの構成要素とその組み合わせ方法などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
7	売れる旅行商品 (Ⅱ)： シーズンとオフの戦略、顧客価値経営、価格競争、チャーター便などを考察し、討議する					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
8	聖地巡礼： 世界遺産からアニメの舞台まで本物に出会い体験する。旅行形態を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
9	旅行業の将来： 海外旅行マーケティングの変遷、ビジネス・モデルの変化、MICE 市場などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
10	国際ホテル利用法： 国際ホテル利用のための、英語表現法を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
11	旅行の法律 (Ⅰ)： 独占禁止法、景品表示法、白夜事件などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
12	ブライダル産業： 人気のウェディングや関連産業などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
13	ディズニーランドのCS： 強さの秘密、新しいアトラクションの建設など、感動の経営を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
14	リゾート開発と観光文化： 国際リゾート開発の狙いと課題を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
15	旅行業の課題と展望： 市場の変化、クラブツーリズムの経営などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 高橋秀夫著「クラブツーリズム研究」毎日新聞社 ¥1,800+税 2. 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ¥2,000+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 旅行業界で活躍したい人、旅行好きの人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	臨床心理学（Clinical Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、様々な精神障害、心理療法、心理アセスメントについて、概論を学ぶ。講義内では、適宜事例や社会的事象を紹介する。									
授業目標： 心の問題について理解し、支援の仕方の基本を習得する。そして事故や他者の心への気づきを深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 40分、 グループワーク 50分	
2	精神障害①うつ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
3	精神障害②不安障害					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
4	精神障害③統合失調症					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
5	精神障害④人格障害					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
6	精神障害⑤発達障害					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
7	心理療法①パーソン・センタード療法					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
8	心理療法②精神分析					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
9	心理療法③認知行動療法					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
10	心理療法④家族療法					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
11	心理アセスメント①行動観察					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
12	心理アセスメント②心理検査					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
13	事例論文を読む					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
14	事例検討					事前：発表資料の作成 事後：講義内容の復習		講義 50分、 グループワーク 40分	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教本： 資料を配布する。					参考文献： 授業中に、適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、テスト（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	倫理学 (Ethics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 人権の更なる拡充が叫ばれる今日、個人の〈自由〉が、既成のモラルや法と対立する局面が現れている。そもそも我々はなぜ〈規範〉を遵守する義務を負うのか。また〈規範〉には、時代や文化の差異を超えた内実が認められうるのであろうか。									
授業目標： 上述した問題関心のもと、本講では〈自由と規範〉をテーマに掲げ、倫理学の地平から個人と共同体の在り方について考察したい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	自由と規範 概論：自然法論の系譜を辿り、各論で展開される人間・国家観を俯瞰する。					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
2	神的自然法論① 原罪・〈事物の本性〉と人間の自由					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
3	神的自然法論② アウグスティヌスとトマス・アクィナスの自然法概念					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
4	契約説的自然法論 アトムの個人の権利と国家権力① ホッブズ：〈リヴァイアサン〉はなぜ抵抗権を認めないのか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
5	契約説的自然法論 アトムの個人の権利と国家権力② ロック、ルソー：市民的不服従の論理					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
6	カント理論哲学 認識の枠組： 〈世界〉はいかに在るか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
7	カント実践哲学 徳論と法論： 〈自己〉と〈他者〉はいかに在るべきか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
8	ヘーゲル〈人倫〉の学① 「自然法論文」における近代自然法論批判 1					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
9	ヘーゲル〈人倫〉の学② 「自然法論文」における近代自然法論批判 2					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
10	ヘーゲル〈人倫〉の学③ 「自然法論文」における共同体論：〈真無限〉の立場					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
11	ヘーゲル〈人倫〉の学④ イエーナ精神哲学における相互承認論：〈愛〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
12	ヘーゲル〈人倫〉の学⑤ イエーナ精神哲学における 相互承認論：〈闘争〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
13	ヘーゲル〈人倫〉の学⑥ 『精神現象学』における相互承認論：〈主人と奴隷の弁証法〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
14	ヘーゲル〈人倫〉の学⑦ 論理学と『法哲学綱要』の視座					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
15	ヘーゲル〈人倫〉の学⑧ 〈民族精神〉と〈世界精神〉：〈世界法廷〉としての世界史					事前：レジュメを熟読する。 事後：試験の準備をする。		講義 90 分	
教本： なし。毎講義時にレジュメ（プリント）を配布する。					参考文献： 岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 曜日や時限の都合（例：「空きコマだった」という理由）だけで履修すると、単位を修得できず、後悔することもあります。履修に際しては、哲学・倫理学・思想史一般について多少なりとも関心を持っていることが求められます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	歴史考古学（Historical Archeology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 考古学の一分野である歴史考古学は、古代以降の歴史研究を、文献史学(古文書学)とともに探求していく学問である。最初に歴史学との関係や、考古学研究としての方法、目的、成果を説明する。その上で、世界各地の歴史考古学研究の状況を講義し、次に日本列島における歴史考古学の現状と成果を、古代・中世・近世・近現代と事例を示して学んでいく。									
授業目標： 考古学的資料が、歴史研究にどのように活用できるのか理解する。 中世・近世・近現代の歴史考古学的研究が歴史叙述に生かされていることを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス。授業の進め方、評価方法の説明。考古学研究の特徴について					事前：高校の日本史の教科書を読んでおく。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、ディスカッション(20分)	
2	考古学研究と歴史考古学研究。文献史研究との関係を説明する					事前：古文書学について調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
3	歴史考古学と関連諸学。民俗学、美術史、建築史等との関係を説明し物質文化研究を理解する					事前：例示した関連諸学について調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	世界各地の歴史考古学。ヨーロッパの古典考古学と中世以降の都市考古学。アメリカや世界各地の大航海時代以降の歴史考古学の概要					事前：ギリシャ・ローマ時代について確認 米国の歴史の概要を調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	日本の古代の歴史考古学。中国大陸、朝鮮半島との関連からの年代決定と国内の文献史料の利用					事前：弥生、古墳、飛鳥時代について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	平安時代の歴史考古学。都市、寺院跡、集落の発掘から分かることと文献史料の関係					事前：平安時代について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
7	中世考古学(1) 都市と城の発掘調査と出土資料から分かる生活文化					事前：鎌倉・室町・戦国時代について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
8	中世考古学(2) 歴史考古学的研究により判明した戦国時代のリアリティー					事前：南北朝時代について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
9	近世考古学(1) 近世考古学史と陶磁器・土器研究。関連諸学との連携で分かってきたこと					事前：江戸時代の年代等概要について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
10	近世考古学(2) 上水道、大小便の処理など都市機能の整備と住生活について					事前：江戸時代の人々の暮らしを考える。 事後：配布資料の内容確認		講義(90分)	
11	近世考古学(3) 江戸の食文化について。出土資料と絵画資料、文献史料を交えて解説					事前：江戸時代の酒や食物について調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、ディスカッション(20分)	
12	近世考古学(4) 各地の遺跡の発掘調査からわかった江戸と各地の城下町、農村の関係					事前：江戸時代の富士山噴火や地震を確認。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
13	歴史考古学からみた16世紀～18世紀の世界、東アジア世界の状況					事前：東アジアの地理について確認。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、小レポート作成(20分)	
14	近・現代考古学 近・現代考古学の成果と意義。汐留遺跡、高輪堤址、戦跡遺跡。産業考古学					事前：明治～昭和の概要について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
15	まとめ。授業全体の振り返りと議論					事前：毎回配布資料を全て確認しておく。 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、デスカッション(45分)	
教本： 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布。					参考文献： 講義ごとに示す。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト、レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
学生へのアドバイス： 毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	レストラン経営論Ⅰ（Restaurant Management Theory Ⅰ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： レストラン業界の現状と今後の方向性を考え、レストラン開業までに必要なマネジメント（基本構想～基本計画～実施計画～着工・竣工）について学習する。									
授業目標： 1. レストランについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法と基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		講義 60分、質疑応答 30分	
2	レストラン業界の現状（外食産業における位置づけ、動向と業態特性）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P12～17） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
3	レストランの経営形態とその特徴について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P18～22） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
4	レストラン経営の問題・課題について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P23～27） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
5	レストラン経営の、これからの方向性と今後求められるレストランマネジメントについて質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P28～37） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
6	レストラン開業までのマネジメント（業態別の商品特性、事業計画策定上の留意点、開業までの業務手順）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P39～45） 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分、 振り返り 20分	
7	基本構想（事業イメージの設定、立地選定、市場調査）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P46～53） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
8	基本構想（理念・コンセプトの設定、基本商品化戦略の設定、資金計画、設計イメージ）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P54～60） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
9	基本計画（メニュープランニング、店舗の基本計画およびデザイン）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P61～65） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
10	事業収支計画について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P66～70） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
11	運営計画について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P70～73） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
12	実施計画（販売促進計画、購買・仕入計画、店舗の実施設計、許認可申請）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P74～79） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
13	着工・竣工（事業収支計画のチェック、メニューのチェック、運営計画のチェック）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P80～82） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
14	着工・竣工（従業員の採用と教育訓練、オープニング計画、竣工検査、開業シミュレーション、オープン）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P82～88） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
15	半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。					事前：半期授業内容の確認 事後：ポイントを整理する		講義 60分、質疑応答 30分	
教本： 「レストランマネジメント総論」（日本ホテル教育センター ￥2,900）									
参考文献： 必要な資料をその都度配布									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	レストラン経営論Ⅱ（Restaurant Management Theory Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： レストラン業界の現状と今後の方向性を考え、レストラン開業後のマネジメント（開業前との違い、商品管理、労務管理、施設管理、仕入れ管理・在庫管理、財務管理、販売促進管理、顧客管理、レストランの防災・防犯管理、食中毒、事故、地震、防火管理、盗難防止・遺失物管理、UG客・暴力団、コンプレイン）について学習する。									
授業目標： 1. レストランについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法と基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		講義 60分、質疑応答 30分	
2	レストラン開業前・開業後のマネジメント活動の違い、「マネジメントサイクル」について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P89～94) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
3	レストランの商品管理（商品管理の留意点、メニュー）、「ABC 分析」について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P95～99) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
4	レストランの商品管理（価格、サービス）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P99～103) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
5	レストランの労務管理（職務分掌、採用：選考・採用、勤務シフト、教育訓練）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P104～110） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
6	レストランの施設管理（店舗、客席、厨房、その他）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P111～114） 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分、 振り返り 20分	
7	レストランの仕入れ管理・在庫管理（留意点、食材、什器・備品、業務委託）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P115～124） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
8	レストランの財務管理（留意点、損益分岐点分析、財務諸表、原価管理）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P125～134) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
9	レストランの販売促進管理（留意点、セールス、広報、広告・宣伝、イベント・フェア）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習（教科書 P135～139） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
10	レストランの顧客管理（留意点、方法、事例）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P140～143) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
11	第10回授業までの学習課題について質疑応答しながら確認し、最後にチェックシートで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P89～143) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
12	レストランの防災・防犯・衛生管理（防災・防犯管理、食中毒）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P147～157) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
13	レストランの防災・防犯・衛生管理（事故、地震、防火管理）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P158～166) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
14	レストランの防災・防犯・衛生管理（盗難防止・遺失物管理、UG客・暴力団、コンプレイン）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習(教科書 P167～182) 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
15	半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。					事前：半期授業内容の確認 事後：ポイントを整理する		講義 60分、質疑応答 30分	
教本： 「レストランマネジメント総論」（日本ホテル教育センター ￥2,900）					参考文献： 必要な資料をその都度配布				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	レストランサービス実務（Restaurant Service）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： レストラン（位置づけ、種類、特性）、組織と業務分担、サービスの基本（テーブルクロス、ナプキン、食器類、トーション、サービストレイ、グラスウェア・、飲物の注ぎ方、ナイフ・フォーク、皿の持ち方・配り・下げ方、サーバー、料理の盛り付け）レストランサービス（心構え、マナー、テーブルサービス、メニューの知識、サービスの手順、料飲サービスの実際、衛生管理、苦情処理）、バーサービス（手順、苦情処理、覚えておきたい基礎知識）食器・リネン・備品の知識（シルバーウェア、チャイナウェア、グラスウェア、リネン類、ワゴン類他）、レストランの防災・防犯について学習する。									
授業目標： 1. レストランサービスについての基礎・専門知識を学び、レストランサービスに関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法と基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		講義 60分、質疑応答 30分	
2	レストラン（料飲部門、レストランの位置づけ、種類、業務の特性、基礎知識）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P2～16） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
3	レストランの組織と業務分担（組織、マネージャー、キャプテン、ウェ이터・ウェイトレス、ソムリエ、その他、覚えておきたい基礎知識）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P18～30） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
4	サービスの基本（テーブルクロスのかけ方、ナプキンの折り方、食器類のセッティング、トーションのかけ方、サービストレイの持ち方）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P32～47） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
5	サービスの基本（グラスウェアの扱い方、飲物の注ぎ方、ナイフ・フォーク・スプーンの取り扱い方、皿の持ち方・配り方・下げ方、サーバーの使い方、料理の盛り付け方、覚えておきたい基礎知識）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P48～66） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
6	レストランサービス（サービスとは、サービス時の心構え、サービス時のマナー、テーブルサービス）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P68～85） 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分、 振り返り 20分	
7	レストランサービス（メニューの知識、サービス業務の手順）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P86～115） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
8	レストランサービス（料飲サービスの実際 食前酒～赤ワイン）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P115～127） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
9	レストランサービス（料飲サービスの実際 肉料理～食後酒）衛生管理、苦情処理について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P127～142） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
10	レストランサービス（ルームサービス、コーヒeshop） バーの基本知識（料飲部門における位置づけ、バー業務の特性、パースタッフの役割と心得）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P143～158） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
11	バーの基本知識（バーサービスの手順、苦情処理、覚えておきたい基礎知識）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P159～175） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
12	食器・リネン・備品の知識（シルバーウェア、チャイナウェア、グラスウェア）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P178～191） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
13	食器・リネン・備品の知識（その他の食器類、リネン類、ワゴン類、覚えておきたい基礎知識）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P192～200） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	
14	レストランの防災・防犯（防災・防犯管理の留意点、防災管理、防犯管理）について質疑応答しながら進め、最後に小テストで振り返る。					事前：授業の予習 （教科書 P82～88） 事後：次回授業の予習		講義40分、質疑応答 30分、 小テストでの振り返り 20分	

15	半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：半期授業内容の確認 事後：ポイントを整理する	講義 60分、質疑応答 30分
教本： 「レストラン業務の基礎」（日本ホテル教育センター ￥2,600） 参考文献： 必要な資料をその都度配布			
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	レポートライティング (Essay Writing)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 実際に書かれたレポートや小論文を分析し、問題点とその原因・改善の方法を報告し合う。そして、わかりやすく説得力のある文章とは、どこがどう優れているのかを具体的に見出す。さらに、実作を通して効果的な書き方を考え、実践力を向上させる。ルーブリック・ポートフォリオによる評価を行う。									
授業目標： 1. アカデミックライティングとは何か、その目的・種類を理解し、レポート・論文を作成するための方法を考える。 2. レポート・論文作成の実践力を向上させる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「アカデミックライティングとは」について説明する 事前自己評価を行う					事前：シラバスを読んでくる 事後：レポートの文体の確認		講義 30分、演習 60分	
2	レポートの形式 構成、見出しの立て方、説明の順序、論理性、参考文献について説明する					事前：疑問点を洗い出す 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
3	レポートのテーマを考える					事前：関心のある事柄をあげる 事後：情報を集める		講義 30分、演習 60分	
4	レポートの構想を練り、情報を集めるー情報の集め方ー					事前：なし 事後：情報を集める		講義 30分、演習 60分	
5	情報を整理し、レポートの目標を定める					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
6	レポート作成① 文章を組み立てる パラグラフ・ライティング 文献引用のしかた					事前：アウトラインを考える 事後：レポート第一稿完成		講義 30分、演習 60分	
7	レポート作成② 自己点検とピア活動 レポートの目的と書き方をまとめる					事前：レポートの自己点検 事後：レポートの加筆・修正		講義 30分、演習 60分	
8	小論文の分析 論理的思考と文章構成の関係を探る、論理性や表現について検証する					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
9	小論文を書く①〈社会問題に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		講義 30分、演習 60分	
10	小論文を書く②〈文化・言語に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		講義 30分、演習 60分	
11	小論文を書く③〈生き方に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		講義 30分、演習 60分	
12	レポート発表①を行う					事前：レジュメ作成 事後：発表コメントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
13	レポート発表②を行う					事前：レジュメ作成 事後：発表コメントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
14	レポート発表③を行う					事前：レジュメ作成 事後：発表コメントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
15	まとめ ポートフォリオの中身を振り返り、事後自己評価をする					事前：ポートフォリオの整理 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
教本： 資料とタスクシートを配付する。					参考文献： 大島弥生他（2014）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]ープロセス重視のレポート作成』ひつじ書房 ￥1,728				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、提出物・自己評価表（20%）、実作のレポート・小論文（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート・論文の書き方を学びます。能動的にテーマを見つけ、論理的に文章をまとめる技能を身につけます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	労働経済論Ⅰ（Labor EconomicsⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	ミクロ経済学							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本科目では日本の労働市場の特徴について、需要と供給のバランスを図る為に取りられる方策について理解を深める。次いで長期雇用を軸とした日本型雇用を守る為に必要とされる教育訓練制度について検討する。さらに労働市場の流動性についても理解を深める。									
授業目標： 1. 労働市場を見る上で重要となる指標の特徴を説明することができる。 2. 人的資本の形成に関する現状と課題について説明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	労働経済論Ⅰを学ぶに当たって（導入） ・労働の構造を示す統計指標から労働経済を考える					事前：教本3～8頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
2	労働市場の重要な指標 ・各種統計分析から日本の働き方に関する特徴を探る					事前：教本8～16頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
3	賃金と雇用量の決定 ・賃金と雇用の需給関係の特徴をつかむ					事前：教本18～22頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
4	労働供給 ・労働供給モデルの特徴をつかむ					事前：教本25～38頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
5	労働と家庭内生産 ・家庭内生産モデルを各種統計から検討する					事前：教本39～50頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
6	労働者数と労働時間の決定 ・準固定費用と賃金の上昇が労働需要に与える影響を考える					事前：教本59～79頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
7	景気と雇用調整 ・調整費用モデルの特徴をつかみ、その課題を検討する					事前：教本80～85頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
8	人的資本モデルとシグナリング・モデル ・人的資本モデルとシグナリング・モデルの特徴をつかむ					事前：教本89～99頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
9	企業内訓練 ・訓練の種類とともに賃金との関わりを考える					事前：教本101～107頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
10	勤続年数と賃金 ・賃金の後払い制度としての退職金の位置づけを理解する					事前：教本111～117頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
11	日本の長期雇用と賃金構造 ・日本的雇用慣行と賃金との関係を理解する					事前：教本118～128頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
12	転職の決定と職探し ・転職に関する諸理論を理解する					事前：教本131～141頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
13	労働市場の流動性 ・離職の現状と課題を検討する					事前：教本142～149頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
14	発展学習① ・公益通報制度の概要と課題を考える					事前：配付資料精読 事後：まとめノートの作成		講義40分、討論50分	
15	発展学習② ・女性の社会進出に関する現状と課題を考える					事前：配付資料精読 事後：まとめノートの作成		講義40分、討論50分	
教本：大森義明、長瀬伸子『労働経済学をつかむ』有斐閣、2021年。 参考文献：授業内で必要に応じて適宜紹介する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40％）、小テスト・レポート等（60％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 労働市場の観点から見ると自らの能力はどのように評価されるのか、という視点で受講して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	労働経済論Ⅱ（Labor EconomicsⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	労働経済論Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本科目では労働経済論Ⅰを受けて、賃金格差、不安定雇用、女性労働、高齢者労働など私たちの身近にある労働問題について経営者としての視点を交えながら検討を行う。実際に起きている労働問題について、受講者の興味関心のある問題を主体的に考える機会を発展学習として設ける。									
授業目標： 1. 格差に関する諸課題について、経済との関連で自らのことばで説明することができる。 2. 労働を取り巻く諸課題の概要と課題について論ずることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	労働経済論Ⅱを学ぶに当たって（導入） ・労働経済論Ⅰで学んだ内容を中心に理解を深める					事前：労働経済論Ⅰの復習 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
2	賃金格差が生じる要因 ・賃金格差がもたらす雇用への影響を中心に考える					事前：教本153～163頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
3	グループ間の賃金格差 ・日本の賃金格差の特徴を理解する					事前：教本164～172頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
4	失業のストックとフロー ・失業率とマクロ経済との関係について理解を深める					事前：教本175～188頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
5	不本意な非正規雇用 ・非正規雇用の拡大がもたらす社会への影響を考える					事前：教本189～197頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
6	出産、家族形成と女性の就業 ・家庭内における女性の役割の変容と労働との関連を考える					事前：教本201～215頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
7	職場における女性労働 ・女性の管理職はなぜ少ないのか					事前：教本217～228頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
8	定年制度と退職 ・日本企業特有の定年制度の概要と課題を考える					事前：教本231～236頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
9	高齢者雇用の経済分析 ・日本の年金制度の概要と課題を考える					事前：教本237～246頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
10	労働組合 ・労働組合を経済との関係で考える					事前：教本249～252頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
11	日本の労働市場と労働組合 ・労働市場変革と労働者の利益との関係を考える					事前：教本253～262頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
12	これからの労働 ・人口構造の変化など社会の変容と労働について考える					事前：教本263～275頁精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
13	発展学習① ・働き方改革の実状と課題を考える					事前：配付資料精読 事後：まとめノートの作成		講義40分、討論50分	
14	発展学習② ・男女雇用機会均等法の概要と課題を考える					事前：配付資料精読 事後：まとめノートの作成		講義40分、討論50分	
15	発展学習③ ・経営環境の変化と雇用関係の流動化について考える					事前：配付資料精読 事後：まとめノートの作成		講義40分、討論50分	
教本：大森義明、長瀬伸子『労働経済学をつかむ』有斐閣、2021年。 参考文献：授業内で必要に応じて適宜紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 労働経済論Ⅰに引き続き、労働市場の観点から見ると自らの能力はどのように評価されるのか、という視点で受講して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	労 働 法 I (Labor Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前提科目	法学、私法学など法学関連の基礎科目							
	そ の 他	なし							
授業概要： これから就職活動を行い実社会に羽ばたこうとする学生諸君にとって、労働法は自らの働く権利を守るための有効な手段となり得るはずである。昨今社会問題となっているブラック企業が存在や長時間労働の是正、男女間の賃金格差など、労働環境を巡る具体的な課題を取り上げながら、労働法体系全般の根底に流れているものをつかむことを主旨とする。									
授業目標： 1. 労働法体系の基盤となる法概念について自らの言葉で説明できる。 2. 身近に起きている労働争議について、判例を基に現状と課題を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	労働法を学ぶに当たって（導入） ・社会の中で労働法がどのように機能しているのかを考える。					事前：教本p.2～7精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
2	労働基準法による保護 ・労働者及び使用者の概念について議論を深める。					事前：教本p.8～15精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
3	労働契約上の権利義務 ・秘密保持義務及び競業禁止義務について議論を深める。					事前：教本p.16～23精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
4	労働契約の締結 ・採用内定に関する問題点について判例を基に議論を深める。					事前：教本p.24～31精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
5	労働憲章 ・均等待遇の現状と課題について判例を基に議論を深める。					事前：教本p.32～37精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
6	就業規則 ・就業規則の効力について判例を基に議論を深める。					事前：教本p.38～43精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
7	懲戒 ・懲戒処分の効力について判例を基に議論を深める。					事前：教本p.44～49精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
8	人事 ・人事考課の問題点について判例を基に議論を深める。					事前：教本p.50～61精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
9	賃金 ・賃金請求権と退職手当の関係について議論を深める。					事前：教本p.62～73精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
10	労働時間・休息・休日 ・労働基準法上の労働時間について議論を深める。					事前：教本p.74～85精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
11	労働時間規制の弾力化 ・フレックスタイム制の現状と課題について議論を深める。					事前：教本p.86～91精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
12	年次有給休暇 ・年休権の発生について判例を基に議論を深める。					事前：教本p.92～97精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
13	男女平等 ・男女雇用機会均等法の現状と課題について議論を深める。					事前：教本p.98～105精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
14	女性及び年少者の保護 ・女性保護規定の現状と課題について議論を深める。					事前：教本p.106～111精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
15	まとめ ・労働法Ⅰの内容を振り返り、理解を深める。					事前：教本p.2～111再読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
教本： 小畑史子『よくわかる労働法 第3版』ミネルヴァ書房、2017年。					参考文献： 授業内容に応じて適宜紹介する。※学習用六法は必携です。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、期末試験（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： これから一社会人として働くための権利を保護する労働法体系の現状と課題を把握できるように努力して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	労働法Ⅱ（Labor Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	労働法Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： これから就職活動を行い実社会に羽ばたこうとする学生諸君にとって、労働法は自らの働く権利を守るための有効な手段となり得るはずである。昨今社会問題となっているブラック企業が存在や長時間労働の是正、男女間の賃金格差など、労働環境を巡る具体的な課題を取り上げながら、労働法体系全般の根底に流れているものをつかむことを主旨とする。									
授業目標： 1. 労働法体系の基盤となる法概念について自らの言葉で説明できる。 2. 身近に起きている労働争議について、判例を基に現状と課題を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	労働法Ⅱを学ぶに当たって（導入） ・労働法Ⅰで学んだ内容を確認する。					事前：教本p.2～7精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
2	育児休業・介護休業 ・育児、介護休業法の概要を理解する。					事前：教本p.112～117精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
3	安全衛生 ・労働安全衛生法の概要と課題を議論する。					事前：教本p.118～123精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
4	労災補償 ・労災保険給付の現状と課題について議論する。					事前：教本p.124～135精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
5	労災民訴 ・安全配慮義務の概要と課題を理解する。					事前：教本p.136～141精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
6	労働契約の終了 ・解雇の自由とその制限について判例を基に検討する。					事前：教本p.142～149精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
7	非典型雇用 ・派遣労働者の雇用形態について理解する。					事前：教本p.150～159精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
8	労働組合 ・労働組合の役割について理解する。					事前：教本p.160～165精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
9	団体交渉 ・団体交渉の手続、態様と断交拒否の救済について検討する。					事前：教本p.166～171精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
10	労働協約 ・労働協約の成立要件及び規範的効力について検討する。					事前：教本p.172～177精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
11	団体行動の法的保護 ・団体行動の種類と禁止事項について理解する。					事前：教本p.178～181精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
12	争議行為 ・争議行為と損害賠償及び懲戒処分について検討する。					事前：教本p.182～189精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
13	不当労働行為・労働委員会 ・不利益取扱及び黄犬契約について検討する。					事前：教本p.190～199精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
14	労働紛争の解決 ・労働審判制度の概要と課題について検討する。					事前：教本p.200～203精読 事後：演習問題への解答		講義 60分、討論 30分	
15	まとめ ・労働法Ⅱの内容を振り返り、理解を深める。					事前：教本p.112～203再読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教本： 小畑史子『よくわかる労働法 第3版』ミネルヴァ書房、2017年。					参考文献： 授業内容に応じて適宜紹介する。※学習用六法は必携です。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（30％）、期末試験（50％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： これから一社会人として働くための権利を保護する労働法体系の現状と課題を把握できるように努力して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									